保健・福祉

人生100年時代の健康管理

桐生大学・桐生大学短期大学部副学長 山科 章

⑧⑨ CKDの原因は？

【プロフィル】広島県生まれ。1976年広島大学医学部卒業後、聖路加国際病院内科勤務。99年東京医科大学循環器内科主任教授。2020年から現職。総合内科専門医、日本循環器学会専門医、元日本循環器病予防学会理事長。

これまで、CKDとは慢性腎臓病の略語で、腎臓の働きが少しずつ低下していく腎臓病の総称であること、CKDはさまざまな生活習慣病と関係していること、腎臓の役割や機能を説明した上でCKDの診断（定義）などを紹介してきました。

実は、少し前まで腎機能の低下が慢性的に続く状態は「慢性腎不全」という病名で扱われていました。腎不全だと、あたかも透析が必要なほど進行した状態と受け取られます。これでは早期の腎機能低下を発見して、生活習慣の改善により進行を抑えることはできません。そこで、自覚症状が全くなく、腎機能の低下もごく軽度の段階を発見するためにCKDという概念が提唱されたのです。

そのため、CKDの原因も慢性腎不全と診断していた頃と比べて大きく変わりました。昔は慢性糸球体腎炎あるいは遺伝性腎臓病など腎臓固有の病気が主な原因でしたが、最近では生活習慣病の増加もあり、糖尿病、高血圧、肥満症（メタボリック症候群）などが主な原因となっています。また、その背景には加齢があります。

最も問題となっているのが糖尿病です。糖尿病のコントロールが十分でないと10～15年で、腎機能が障害され、糖尿病性腎症が発症します。進行すると血液透析などの人工透析が必要となります。

人工透析の原因疾患も大きく変化しました。1997年から糖尿病性腎症は慢性糸球体腎炎を抜き、透析導入の第1位となりました。その後も増加しましたが、2010年ごろからは糖尿病性腎症による新規人工透析導入は頭打ちとなりました。この数年は減少傾向で、19年は41・6％でした。

新規の人工透析等導入患者数が減ったのは、CKDとしてより早期に対応する成果が表れてきたと考えています。

一方、高血圧による腎機能障害（高血圧性腎症）は高齢者の増加とともに増え続けています。その病態である腎硬化症による人工透析も増え続けており、19年には慢性糸球体腎炎を抜いて、人口透析導入の第2位（16・4％）の原因となっています。

糖尿病と高血圧の原因である生活習慣の改善の必要性が改めて実感されます。

※次回は「CKDの進行を防ぐためには…」です。

CKDの主な原因

日本腎臓財団ＣＫＤ啓発冊子「慢性腎臓病（ＣＫＤ）予防のために」から引用

◆毎週月曜連載　桐生大学・桐生大学短期大学部副学長の山科章さんは、同大学医療保健学部の学生などに講義も開講している。